

発行所
薫風・満天フィールド
交流塾新聞部

〒010-0444
秋田県南秋田郡大潟村
字南2丁目2

公立大学法人 秋田県立大学
大潟キャンパス内
学生支援GP事務局
電話 0185(45)3211

印刷所
(株) 八郎潟印刷

公立大学法人 秋田県立大学

薫風・満天フィールド交流塾

薫風・満天新聞

2009年(平成21年)7月15日(水)

第5号

きょうの紙面

▽主張、遊びの先輩
登場、薫風サークル
紹介……2面

▽2009年度
交流塾活動紹介
……3面

▽薫風in本荘キャンパス
……4面

特別寄稿

遊ぶということ

秋田県立大学生物資源科学部
応用生物科学科 学科長

稲元 民夫

ある日、テレビにとある紛争地の子供たちの情景が流れていた。男の子たちが棒きれを鉄砲に見立てて戦争ごっこをしている。ふと、自分の子供の時のことが思い浮かんできた。そう、私もよくチャンバラごっこをやったなあ。竹を削っては弓や紙鉄砲、竹とんぼなんかを作っていた。なんだ、今の私は肥後の守(小刀)

をドライブと半田ごてに持ち替えただけじゃないか。私の工作好きの原点は子供の時の遊びの中にあつたのだ。それだけじゃない、当時の遊び仲間といえば、年齢の違う地域の子供たちがみんな一緒になって遊んでいた。喧嘩して叩かれたりもしたけれど、色んなことを教わった。人との付き合い方もそこから得ていたのだ。

野生動物の子供たちも、遊びながら狩りや生存競争の厳しさを学ぶという。そう、遊びは人も動物も成長する上で、欠かせない要素なのだ。広辞苑によれば遊という字は、子供や魚鳥などが無心に動きまわる様を表すと同時に、学問のために他郷へ行くという意味もあるという。これは正に薫風満天塾の諸君を

表す言葉ではないか。豊かな秋田の自然の中で、何も要求される事なく思いつき遊ぶことで、自由な発想が生まれ、次へのステップに繋がるのだ。だから塾生諸君には、一刻、伸び伸びと色んなことにチャレンジして過ごして欲しい。そうしたら何かが見えて来るはずだ。冒頭の戦争ごっこの標的にされた女の子は、学

校にも通えない中で大事にしていたノートをずたずたにされ、悲しみの涙を浮かべていた。こんな暴力と破壊の遊びしか知らない子供たちにどんな未来があるのかと思うと暗澹たる気持ちにさせられた。でも、彼らも塾生の様に、きつとそんな状況を反面教師として明るい未来を築いてくれるに違いない。

活動を通して新しい友達を得られるのも、大きな魅力でしょう。人との出会いはとても重要です。自分だけでは解決できない問題や大切なことを、他人を通して学べるからです。これから先、悩みを抱えたときや、岐路に立ったときに、交流塾での思い出が役に立つはずですよ。書いてきて気づきました。私が思う人間力って交流塾そのものなんだ、と。(交流塾事務局員・安田和恵)

いざ、薫風の夏へ!!



交流塾 “夏の陣” はじまる

薫風・満天フィールド交流塾は、新入生を迎えて、全国農業系学生フォーラム(仮名、9月上旬から中旬にかけて開催予定)と加茂ライブ2009(8月上旬開催予定)が開催される夏に向けて活動を開始した。塾生たちが発案した合言葉は「主体性」。様々な活動を通して実行力を高めてきた塾生たちの新たな挑戦が始まる。

●雪まつりから3カ月

交流塾は、多くの経験と教訓を得た雪まつりを乗り越えて、2大イベントが待ち構える薫風の夏へと向け動き出した。

雪まつり実行委員が中心となつて行われた「夏の陣」作戦会議では、「コンセプトやビジョンをしっかりと持つべき」「目的意識の共有が大切」など、雪まつりの反省を踏まえながらも、前向きな意見がたくさん寄せられた。満場一致で決まった合言葉は「主体性」。この言葉には、やらされるのではなく、自分たちの手で創り上げるという思いが込められている。

雪まつりでは参加者の感想にやりきれない気持ちになつた塾生もいた。会議に出してきた「リベンジを果たす」という言葉は全員共通の思いだ。

●2つの特大イベント

夏には次の2つのイベントが開催される予定だ。現段階(5月末)で決まっている内容を紹介する。

①全国農業系学生フォーラム(仮名)

農業に関心を持つ全国の学生が集い、大潟村を舞台に交流する。農業体験や農家民宿、地域参加型の学生討論会の開催など、「農」をキーワードに内容を企画している。(9月上旬から中旬にかけて開催予定)

②加茂ライブ2009

男鹿半島の加茂青砂で海辺の暮らしに触れながら、地域の人々と交流する。昨年は船釣りや浜辺遊びにはじまり、海鮮料理づくり、キャンプファイアーで地域

住民とふれあい、世界の打楽器を皆で演奏して大いに盛り上がった。(8月上旬開催予定)

●新入生大歓迎

今までにない大きなイベントに胸高鳴るが、それだけに人手がいる。目下の課題である仲間集めに有志たちは奔走している。これまで中心になつて交流塾で活動してきた見上歩くん(アグリ3年)は、「一番交流塾を楽しんで欲しいのは、大学生活をエンジョイすることに燃えている新入生。塾では学内の友達はもちろん、地域の人たちや他大学の学生とも、遊びを通して交流を深めることができ、かけがえのない経験と人間関係が得られる。ぜひ新入生も薫風の夏を大いに楽しんで欲しい」と語る。秋田県立大学には、交流塾という、青春をエネルギーギッシュに満喫できる場所がある。多くの学生が集い、「薫風の輪」が広げられてゆくことに期待したい。



山菜採り

4月25日に行われた「山菜採り」に参加したのは、碓直樹君(アグリ2年)と斉藤憲吾君(応用2年)のふたり。対して、男鹿北山野草の会顧問の高橋賢さん(68)、文子さん(69)夫妻、鈴木寿子さん(63)ら7人の大人が「案内人」を務めた。この日は、男鹿市の十二桜公園周辺を散策しながら、タラノメやワラビ、シドケなどを収穫。学生ふたりは「ほら、ここにあるよ」「あつ、あそこにも」という案内人の適切な指導に手を伸ばしていた。

会場を北浦公民館に移した昼食会。高橋さん、鈴木さんが作ってくれた山菜の天ぷら、煮物、炊き込みご飯などに大満足だった。案内人の高橋賢さんは「若い人と一緒に歩くのも元気になるんですよ。もてなしを受け、逆に感謝されもして、「ああいい一日だった」だろうな。」

「学生の中には、沢山の事を体験してほしい」活動に関わる学生の思いはさまざまです。「この活動に興味があるのか？」という聞かれた時は、ちよつとシヨククだったけれど、確かに1つ1つのメニューを見て、人間力が高まるのかと聞かれれば、答えようがないかもしれない。しかし、自信は経験から生まれるし、思い出はどんなときでも自分を励ましてくれます。多くのことに関わり何かを感じることが、自分の将来を支えてくれると思います。

活動を通して新しい友達を得られるのも、大きな魅力でしょう。人との出会いはとても重要です。自分だけでは解決できない問題や大切なことを、他人を通して学べるからです。これから先、悩みを抱えたときや、岐路に立ったときに、交流塾での思い出が役に立つはずですよ。書いてきて気づきました。私が思う人間力って交流塾そのものなんだ、と。(交流塾事務局員・安田和恵)

薫風抄

交流塾が始まって、3年目に入りました。今年度も50ほどのメニューを計画しています。

当たり前ですが、交流塾は学生のために存在しています。目標は「学生の人間力を高める」です。でも実は私、塾の運営に携わっていないながら、人間力とは具体的に何を指すのか、よくは解りません。ただひとつだけははっきりと言えます。「学生のうちに、沢山の事を体験してほしい」

活動に関わる学生の思いはさまざまです。「この活動に興味があるのか？」という聞かれた時は、ちよつとシヨククだったけれど、確かに1つ1つのメニューを見て、人間力が高まるのかと聞かれれば、答えようがないかもしれない。しかし、自信は経験から生まれるし、思い出はどんなときでも自分を励ましてくれます。多くのことに関わり何かを感じることが、自分の将来を支えてくれると思います。

活動を通して新しい友達を得られるのも、大きな魅力でしょう。人との出会いはとても重要です。自分だけでは解決できない問題や大切なことを、他人を通して学べるからです。これから先、悩みを抱えたときや、岐路に立ったときに、交流塾での思い出が役に立つはずですよ。書いてきて気づきました。私が思う人間力って交流塾そのものなんだ、と。(交流塾事務局員・安田和恵)

主張

「畑っこ」の醍醐味

生物環境科学 3年 田中進吾

みなさんこんにちは！
秋田キャンパス「畑っこ」
の副代表の田中進吾で

す。
みなさんは「畑っこ」とい
うサークルを知っていますか？秋田キャンパス「畑っこ」では、圃場で楽しくのんびりと、自給自足を目指しているいろいろな野菜を育てています。毎週土曜日の野菜作りが主な活動ですが、GWに行われる菜の花フェスティバルや、大潟キャンパス「畑っこ」の田植え交流会などの行事にも参加しています。

今年ハナスやカボチャ、エダマメなど16種類の野菜を育てる予定です。ヒヨウタンやラッカセイ

といった少し変わった野菜にも挑戦してみようと思っています。
私は野菜を種から育て、それを自分たちで味わえる事が「畑っこ」の醍醐味だと思います。育てた野菜たちが日に日に大きくなって行く様子を見るのはとても楽しいです。「畑っこ」は無農薬栽培をモットーとしており、雑草や害虫が多く発生して大変ですが、その分、自分たちで手をかけて育てた野菜にはとても愛着を感じます。

また、くわを使った耕耘、畝作り、田植えなど普段の生活ではなかなか出来ない体験をできることも、「畑っこ」の魅力だと思います。
野菜作りを楽しめて食費も浮いてしまう豊かな畑っこライフ。みなさんも一緒に味わってみませんか？
興味のある人は気軽に遊びに来てください。



先生が関わっている遊びの魅力は？
天体観測、それと前になります。冬には掛魚祭りの見学、スノーウォークスにも協力しました。

私はもともと宇宙について知りたくて理系に進んだんです。見たいのはよく理科の教科書に載っているア

食べるのが大好きなので、鱈汁など「食の企画」も進んで関わりました。太つてしまうので困りますが、この活動を通して知ったのは「食育」。ちゃんと食べて、遊びも勉強も頑張れたらいいな、と思っています。

一塾の活動を通して、学生に伝えたいことは？
幕末の志士・高杉晋作の辞世の句は「おもしろきこともなき世をおもしろく」です。この句のように、自分が面白くしよう、という

気持ちを持つことが重要で、交流塾の運営は企画から実行まで学生が中心。高杉晋作と同じく、社会に対して積極的に生きていこうという学生にとっては、うつつけの場です。

このタラは間もなくおいしい汁にして、タラふく頂きました。

遊びの先輩登場！④

「自分が面白くしよう」



廣田 千明さん (36)
(電子情報システム 学科准教授)

一自身が学生のころと比べて、今の学生の遊び方はどう映っていますか？
遊び始めてしまえば、今も昔も変わらない。楽しく遊んでいると思います。ただ、遊び始めるまでが、今の人は消極的かな。「面白くないからやめようか」と待っていることが多い、と感じます。

一講義で学ぶのと、遊びで学ぶことの共通点はあるのでしょうか？
難しいことも努力すれば乗り越えられます。そういった苦労の後の達成感が同じだと思います。

田植えっこ

吉村工 (新聞部)

5月26日、フィールド教育センター内で「畑っこ」サークルの田植え交流会が行われた。

田植え交流会は、秋田・大潟キャンパスの双方で活動しているサークルメンバーの親睦を深めることを目的としており、今年14人が参加した。

つなぎに特長グツを履いたメンバーたちは、小雨が降るなか、想像以上に粘る大潟村の泥に足をとられながら、もはつらつと作業に



冷えたからだを温めたのは、自分たちが育てた野菜と昨年収穫した米を使った炊き込みご飯。まさに「畑っこライフ」だ。

参加者たちは、「畑っこ」サークルの醍醐味を味わいながら、それぞれの抱負や今年の作付け予定などの情報を、両キャンパスのメンバーの間で楽しげに語らっていた。実りの秋が楽しみだ。

薫風学生企画掲示板



Cooking Bob

現在、Cooking Bob ではイチゴとメロンの栽培に取り組んでいます。毎日、メンバーで温室とビニールハウスにて、水やりをしています。

6月のはじめにはイチゴ、夏にはメロンを収穫する予定です。収穫&調理時には、みなさん是非参加してみてくださいね!! (寮ホワイトボードにて連絡します。メール連絡が欲しい人は 609 菅原のポストまで☆)

B級グルメづくり

大潟村が主催する「B級グルメづくり」にチームをつくって参加します。「B級グルメづくり」とは、大潟村のお米を使い、独自性のあるB級グルメをつくり、チームで出来を競うものです。料理好き集まれ!!

八朗湖・輝水交流ネットワーク



私たちは、さつこ村の一部門として、地域交流や研究へと活用することを視野に入れ、水辺の創造や管理を行います。昨年度の計画準備段階を経て、今年はいよいよ本格的にフィールドでの活動に突入します。意欲のある人は、ぜひ参加して下さい。

公式ホームページ(「輝水ネット」で検索してください)
: <http://www.akita-pu.ac.jp/kunpu-manten/kisuihp/toppage.html>
ブログ: <http://kunpulid.exblog.jp/>

農家さんと語らう会

—ここは秋田県大潟村、農業の最前線—
農の扉はすぐそこに

大潟村は、食糧生産のために拓かれた土地です。ここには、米作りが厳しい中にあっても、強く、開拓者精神あふれる農家さんがたくさんいます。農家さんと語らう会は、そんな農家さんたちと、農業について自由闊達に語り合う会です。特別な知識は必要ありません。大事なものは、「農家さんと話してみたい」という気持ちです。みなさんの参加を待っています。開催は掲示にて...

以上の活動への参加を希望される方は、kunpu-manten@akita-pu.ac.jp までお問い合わせください。新しい活動の企画も大歓迎です。

学生企画
満載

2009年度

新たな学生企画活動も常時募集しています!!

薫風・満天フィールド交流塾 活動特集

村づくり



活動内容 薫風・満天フィールド交流塾の活動拠点づくり。
活動日 5月下旬以降の土日、夏休みなど。(詳細は参加学生と相談のうえ決める。)
活動場所 大潟キャンパス フィールドセンター
交通機関 学バス・自家用車等、参加者自身で確保すること。

概要

フィールドセンター内に、薫風・満天フィールド交流塾の活動拠点として丸太小屋、公園、ハーブ園、畑などを整備する。村全体の整備計画や丸太小屋の設計から施工まで、講師の指導の下で村づくりを行なう。次年度以降も継続的に活動する予定である。

カヌーづくり



活動内容 ウッドカヌーの手づくりにチャレンジし、秋田杉のすばらしさを知る。
活動日 昨年度から引き続き製作中(活動日については参加者へ直接連絡する。)
活動場所 大潟キャンパス・フィールドセンター・湖水学バス・自家用車等、参加者自身で確保すること。

概要

カヌーキットの購入先等から指導を受けながら、カヌーを手作りし、完成したカヌーで湖水の散策を実施する。
※製作にあたっては参加者の希望・意見を取り入れてカヌーづくりを行う。

ラジコンヘリコプター 農業利用体験



活動内容 ラジコンヘリコプター製作と農業利用体験
活動日 昨年度から引き続き製作中(活動日については参加者へ直接連絡する。)
活動場所 大潟キャンパス・フィールドセンター
交通機関 学バス・自家用車等、参加者自身で確保すること。

概要

ラジコンヘリコプターの操縦技術を習得するため、シミュレーターによる訓練、製作したラジコンヘリでの訓練を行い、農業部門への活用を探る。

雑草観察



活動内容 大潟村周辺の様々な雑草を観察し、自然に親しむ。
活動日 5月中旬から(詳細は参加学生と相談のうえ実施する。)
活動場所 大潟キャンパス フィールドセンター、その他
交通機関 参加者と相談のうえ、必要であれば手配します。

概要

露崎先生の指導の下、大潟村や周辺地域の厳しい自然のなかで、逞しく生え続ける雑草の種類や生態を学ぶとともに、豊かな自然に親しむ。

ルアーフィッシング



活動内容 ルアーフィッシングでブラックバスやライギョ等を釣り、外来魚の生態を知る。
実施時期 昨年度は6月から10月。日程等は申込者と相談し決める。
活動場所 秋田県内の湖水
交通機関 参加者と相談のうえ、必要であれば手配します。

概要

永吉先生とボートに乗り、県内の湖水でルアー釣りを体験する。
※3人乗りのボートを2艘つかいます。1回の参加人数に制限があるので希望者が多い場合は抽選となる場合もあります。
※参加者は長靴等釣りに適した服装とすること。

日曜大工



活動内容 講師から大工道具類の安全な使用方法及び実技を学び今後の作業体験に役立てる。
活動場所 大潟キャンパス フィールドセンター交流塾活動室
交通機関 学バス、自家用車等、参加者自身で確保すること。

概要

薫風・満天フィールド交流塾で所有する大工道具や電動工具を利用し、木材加工技術を習得する。参加者の希望に応じて木工品を作製する。
※活動の実施にあたっては、随時塾へ申し込むこと。

野菜作り



活動内容 薫風・満天フィールド交流塾のフィールドセンター圃場のさつこ村で野菜づくりを行う。
実施時期 4月下旬から
活動場所 大潟キャンパスフィールドセンター
交通機関 学バス・自家用車等、参加者自身で確保すること。

概要

フィールドセンター圃場で、ビニールハウス、露地栽培で学生が希望する野菜栽培を行い、栽培技術の習得、生産する喜び、収穫する喜びにふれる。収穫した野菜の活用は学生自身が決めることができます。
※野菜生産は日常の管理が大切となりますので、場合によっては朝夕の管理が必要です。特にビニールハウスはこまめな管理が必要です。

新聞・テレビ番組づくり



活動内容 薫風・満天フィールド交流塾の活動等の情報発信を行う。
活動場所 大潟キャンパス、その他各メニュー活動場所等
交通機関 学バス・自家用車等、参加者自身で確保すること。

概要

薫風・満天フィールド交流塾新聞の発行とテレビ番組の作製に携わり、塾の情報発信(ホームページ含む)を行う。情報発信機器類の操作法や新聞づくりの技術を習得し、情報提供の表現力を高める。

地域農家との交流



活動内容 地域のリーダーとして活躍している若い農業者と交流を深める。
活動日 交流先と相談のうえ決定する
活動場所 農業者の提案する場所
交通機関 参加者と相談のうえ、必要であれば手配します。

概要

地域のリーダーとして活躍している、若い農業者と農作業の手伝いを通じて交流を深め、農業者の取り組み姿勢や意欲を学び、自己研鑽をはかる。分野は異なっても、仕事に取り組む姿勢や意欲は共通するものと思われるが、参加学生と相談のうえ受け入れ先を検討する。
※受け入れ先に対する配慮のため、中途半端な参加は好ましくない。
※詳細は参加学生・受け入れ農業者と相談のうえ決定する。

今回紹介したものを含め、今年度は60以上の活動が既に提案されています。交流塾は学生主体、興味のある活動は積極的に参加しよう!! 活動に関する問い合わせは kunpu-manten@akita-pu.ac.jp 交流塾のホームページでも活動を紹介しています。 <http://www.akita-pu.ac.jp/kunpu-manten>

ボートが熱いぞ!!

薫風 in 本荘キャンパス



薫風ボート体験会

本荘キャンパスでは4月29日に今年度最初の活動「薫風ボート体験会」が開催された。この活動は、由利本荘市に定着しているスポーツであるボートを体験しながら、自然や地域の方々ともふれあうことを目的としている。

ボート体験会に初参加の学生はもちろん、薫風・満天フィールド交流塾の企画に参加すること自体が初めてという学生、先生方が大半である中で迎えた当日。

初めて乗ったボートは不安定で、「ひっくり返るんじゃないのか」と心配だった。漕ぎ手の4人はオールを規則正しく動かすことで精いっぱい。

とにかく周りとのリズムを乱さないように懸命に漕いだ。

徐々に息があつてきた。

無駄な力が抜け、視線は上がり、風を感じながらわずかな力で水上を快速に進む自分に気がつく。

周囲を見渡せば、水面から岸にかけて色鮮やかな花や緑があり、見上げるとそこには青空が――

子吉川の上から見渡した景色は、普段の視点とは全く違う広がり、爽快感に満ちていた。



ボート熱浸透

昨年の夏に活動を始めるときは、まずは企画を実施に結び付けることで精一杯だったが、今年度がスタートして4月、5月と参加者が増え、留学生の参加も目立つようになった。今では、9月に行われる「子吉川レガッタ」に出場すると意気込んでいる。ボートの魅力に取りつかれた学生もいる。ボート熱が本荘キャンパス内に浸透してきているようだ。

今後の活動予定

ボート体験会は継続して行われる。8月には大潟村サマーレガッタの大会への参加はもちろん、大潟キャンパスの学生たちとも交流したいと考えている。

そのほか、昨年度天候不良により十分な観測ができなかった天体観測のメンバーたちが、塾の活動に興味を示すほかの学生たちと協力しながら新たな企画を立ち上げようと計画中。さらに本荘キャンパス内に設置された「創造工房委員会」との共催企画もある。ここでは先生方が普段の講義ではできない学生向けの体験を実施し、ものづくりなどを通して学生の着想力や想像力を育てることを目的としている。本荘キャンパスの学生たちも学内に広く参加を呼びかけ、創造工房委員会と協力して活動に取り組む予定だ。



学生の感想

- ・留学生の方と楽しめてよかった
- ・ボートで風を切る楽しさを知った
- ・疲れるくらい漕げて満足した



- ・本荘高校OBの方々が非常に漕ぐのが上手だった
- ・大学以外のいろんな人と話せたのが楽しかった
- ・Cooperation is very important.

―新聞を読んだ、交流塾で遊びたいと思った―

書くことで、薫風の輪を広げたい。

わたしたちは、交流塾の活動を発信します。

楽しい新聞を書くために心がけること

- 一つ、交流塾で活動する仲間の表情を素直に伝えること
- 一つ、交流塾のメインテーマである「遊び」を忘れずに紙面に盛り込むこと
- 一つ、人との関わりと取材から発行までの過程を大切にすること。



薫風・満天 新聞部より

私たちは、新しい仲間を迎え、新聞をよりよいものにするため、そして、部の活動をより有意義なものにするため、以上の3つのことを心がけ、今年度の活動をスタートしました。

―書くことで、薫風の輪を広げたい―

この言葉には、青春をエネルギーに満喫できる交流塾の魅力を、もっと多くの人に知ってもらい、もっと多くの学生が仲間になって欲しいという思いが込められています。

そのために私たちができることは、新聞を書くこと。

―わたしたちは、薫風・満天フィールド交流塾の活動を発信します―

決意を新たに、私たちは二年目の活動に臨みます。



昨年度末に本荘キャンパスを拠点に行われる薫風・満天フィールド交流塾の活動を紹介する Web ページを立ち上げました。

URL は http://kunpu_honjo.akita-pu.ac.jp/ です。

どうぞお立ちよりください。